



令和4年
9月
新聞委員会

地域の人と関わってますか？

―できることで機会を作る



7月8日(金)の放課後、須坂市の井上公民館で「高校生が教えるスマホ講座」(以下、スマホ講座)が行われた。須坂高校内でも時々話題になる謎多きスマホ講座。一体、誰がどのような趣旨で開催しているのか、疑問に思う人も多いのではないだろうか。スマホ講座とは、月に1回公民館で、須坂市にお住まいの方を対象に、高校生が講師となって、スマホについてわからないことを教えている。それぞれのわからないこ

とを解決するため、質問内容は「LINEの友達追加の仕方、スタンプの送り方、Googleアカウムの作り方などのスマホの基本的な使い方からLINEなどの電子決済の方法など多岐にわたる。また、「LINEの過去のトーク履歴の消し方など、「なぜ？」と思うような質問も多かった。

参加したい地域の方は回覧板などを通して情報を得て、事前に予約をすればどなたでも参加でき、リピーターも多いそう。館長さんと須坂市地域おこし協力隊の井上さんが主導となって開催している。スマホ講座の目的について、井上さんは「身近な大人である教師など、仕事として関わる大人は多いが、素



また、参加した地域の大人と関わる機会は高校生のうちには少なくなってきたかと思う。自分たちが教えられることを開いて会話の機会を増やし、社会に出たときに役立ててもらえたら」と話す。

4月から始まり3回目の開催となる今回、講師として須坂高校生4名が参加した。この会で印象に残ったのは、温かい雰囲気講座が進められていることだ。高校生講師がマンツーマンで地域の方々

に教えている様子は笑い声が出て明るく楽しい空気だった。井上公民館長の角田さんは「高校生がスマホを教えるという中で、本当に友達のように接してくれて良かったです」と柔らかく講座を振り返った。

6月24日(金)の放課後、大会議室でパブリックビューイングによる「高校生と大学生のための金曜特別講座」(以下、東大金曜講座)が行われた。

そもそも東大金曜講座とは、東京大学教養学部が主催しており、東京大学の教員が自らの専門分野の面白さを分かりやすく伝え、将来に向けた展望を描き、60分間の講義を行う。講義内容は文系から理系まで多岐にわたり、高校までに習う科目の垣根を越えた分野の講義もある。最近の講座で扱った話題は、量子力学、法社会学、進化生態学、ナチズム、スポーツ科学など。毎週金曜にオンライン配信で開講されている。須坂高校以外にも多くの高校が参加しており、全国の約1割の高校が視聴しているそうだ。

今回の講座のテーマは、「違いと不平等」ジェンダーに着目して。講師は白波瀬佐和子先生(東京大学文学部人文学科教授)。近年この主張がますます強くなってきているが、果たして日本はジェンダー

意外と認められない互いの価値観

一固定観念にとらわれる日本人一

―平等と言える社会だろうか。白波瀬先生はそうはお考えでないようだ。その理由の具体例として先生は、男女のイメージの持たれ方の違いを挙げた。男性で身長が160cmの人は「小柄」、女性で170cmある人は「大柄」で「男らしい」というイメージは今でもあり、これはジェンダーの違いを表していると言っていた。まだまだ男社会の色が残っているこの国で、違いや不平等について考え、解決策を見出すにはまず、互いの価値観を認め尊重することが大切だと先生は強く訴えた。我々もこの問題を他人事と思わず、自分事として真剣に考えていくことが大切である。

今回の東大金曜講座は9月からの開講予定で詳細は未定だそう。また、大会議室での視聴の他、Zoomで自宅からの視聴もできる。参加希望者はオクレンジャー内の東大金曜講座のメッセージよりcontact@okujen.jpにアクセスすることをすすめる。進路について考えている人、興味がある人は是非。(文責・南澤・内藤)



須坂高校生が多い。@okujen(Instagram)で毎月募集をかけたというそうなのも、須坂高校以外の高校生でも、希望すれば講師としてスマホ講座に参加できるそうだ。(文責・岩野・大川)